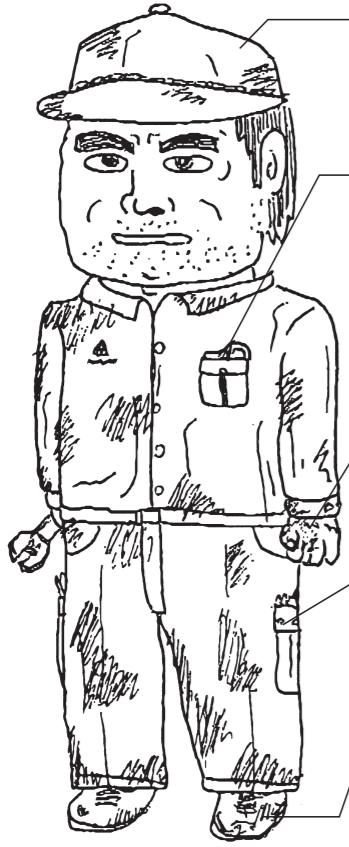


# バブル崩壊後の中小企業の集積地の現状

~ 1994年の学生が見た東大阪市高井田の現状 ~

日本の中小企業の未来を示す



薄汚れた帽子もおっさんにとっての制服であるのかもしれない。髪をたださわりとさせないためだけでなく、汗を吸い体の温もりのしみこんだ帽子は、おっさんの手を説うのであろう。

シャツポケットの中には必ずといっていいほどタバコが入っている。仕事を終えた後の一服はとても美味いに違いない。

おっさん達が必要とするのは洒落たシャツではなく、丈夫で長持ちし、安い作業用のシャツである。洗ってもおちそうにない油汚れや破れが経験と技術を証明している。

たとえ背の低い華奢なおっさんでも、その手はゴツゴツといかつく、長年、労働に励んできたものだとわかる。

丈夫で機能的でなければならないパンツについているポケットは決して飾りではない。工具類や軍手などが勝手よくとりだされる。

ボロボロになった安全靴のスチール部分がむきだしになっている。おっさんにとって足元を守るために安全靴がファッショとして若い子にはかれていることを、おっさんは知っているであろうか。

中小企業工場が建ち並ぶ高井田のおっさん達の地盤は決して安定したものではない。不況が続き、閉鎖する工場が多くなる中で、労働に就いていたのである。

しかし、華やかで名のある大企業とは違って、中小企業の工場でのおっさんの仕事は馴染みがない。おっさんたちには一度も表舞台に立つ機会は巡ってこなかったが、日本の高度成長の骨格を作る力となった人々は間違いない。彼らの活躍を伝えてくれる物が見つけにくい中、苦闘の仕事ぶりを見出せるのは、汗を吸い、油と煤にまみれた仕事着ではないか。それでおっさんは知っている。

日本の屋台骨を支えてきたおっさん達に目を向けることは、意義あるというよりも必要な時代になってしまった。

この本の目次は、つぎのようになっている。

第1章	東大阪の貸工場
第2章	家族構成と休暇の過ごし方
第3章	中小企業の労働問題
第4章	高井田地区の展望
第5章	高井田の現状
第6章	高井田を取材して~中小企業と諸問題~
第7章	中小企業を取材して~経営者に聞く~
第8章	中小企業とは
第9章	中小企業の知識と実態
第10章	中小企業の世代交代
第11章	中小企業の労働条件について
第12章	高井田に住む人たち



例年クールビズを行なうのは6月1日から9月30日までの期間である。5月1日から東大阪市役所(同市荒本北1)でクールビズが始まり10月31日まで野田義和市長はじめ市職員有志らが、市オリジナルのラガーシャツを着用して公務を行っている。

クールビズで節電と誘致をPR

5月1日から午後4時まで、市職員有志らがクールビズ期間中にオリジナルのラガーシャツを着用する。

このラガーシャツは、組み市内外にアピールしようと、市職員有志らがクールビズ期間中にオリジナルのラガーシャツを着用して公務を行っている。

5月1日から午後4時まで、市職員有志らがクールビズ期間中にオリジナルのラガーシャツを着用して公務を行っている。

